

# 環境デザインとその規制

Keio University

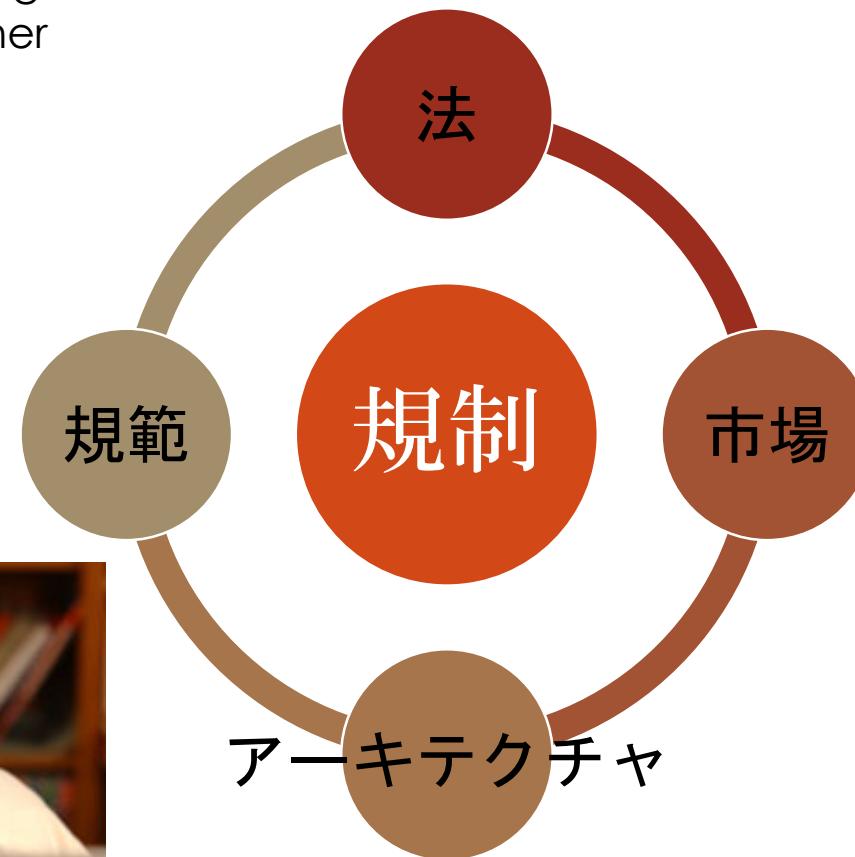


1858  
CALAMVS GLADIO FORTIOR

慶應義塾大学法学部  
大屋雄裕

# 規制手段のモード論

Lawrence Lessig  
CODE and other  
Laws of  
Cyberspace  
(Basic Books,  
1999)



規制=他者の行動へのコントロール  
(主体は問わない)

伝統的なモード  
法・規範・市場



# アーキテクチャの権力

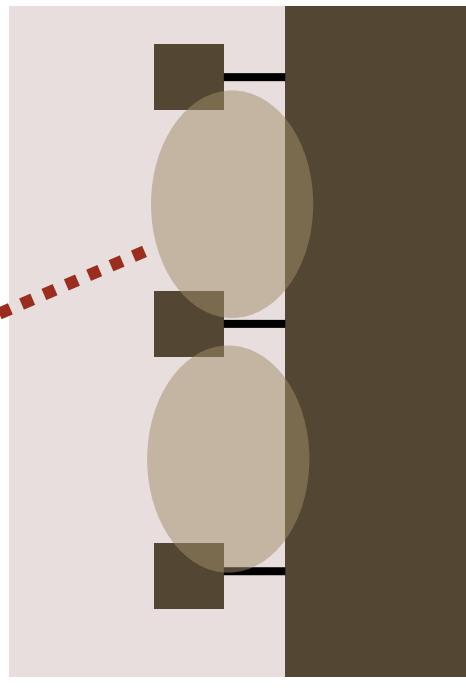
- 社会生活の「つくられた環境」
  - 自己決定の前提である**環境自体の操作**



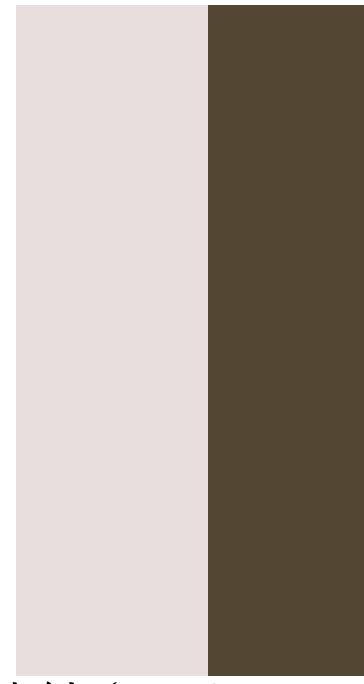
中部国際空港



# アーキテクチャによる規制



単純なケース



洗練されたケース

# アーキテクチャの特徴

- 事前規制
  - 行為の可能性 자체を消去する
  - 気付かれることなく機能し得る
- 確率性に依存、薄い前提
  - 対象の物理的・生物学的特性に依存して機能
    - 特殊な個体には通用しないかもしれない
    - 人間以外に対しても通用する



いらすとや (<https://www.irasutoya.com>)

# ナッジ nudge

- 選択環境のデザイン=ヒューリスティクスの利用
  - 継続性への信頼
  - 無作為の選択の偏り
  - 選択する負担の回避



Cass R. Sunstein (1954-)  
Photo: Matthew W. Hutchins, Harvard Law Record  
([https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cass\\_Sunstein\\_\(2008\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cass_Sunstein_(2008).jpg))

- 選択肢の維持
  - リバタリアニズム（自由至上主義）
- 本人のためになる選択への誘導
  - パターナリズム

# ナッジの実例

- eg.1：ファーストフードのセットメニュー
  - ポテトがデフォルト（サラダに変更可能）
  - ポテト・サラダから自由に選べる
  - サラダがデフォルト（ポテトに変更可能）
- eg.2：カフェテリア方式の食堂
  - 取りやすい場所・入口に近い位置に
    - サラダやフルーツを配置
    - 揚げ物やポテトチップスを配置



# ナッジの発展

- より弾力的なコントロール
  - 個別化されたデフォルト  
(パーソナルデータの活用)
- セレンディピティ・アーキテクチャ
  - 偶然の出会いの意図的な演出
  - 人為的なノイズの追加
- ポジティブな誘導／ネガティブな強制
  - レコメンデーション、検索エンジンの表示結果
  - 気付きにくさ**.....抵抗・調整の難しさ



# by design

- Privacy by Design (Ann Cavoukian)
  - プロアクティブなプライバシー対策の考慮
  - ユーザによる自覚的コントロールの失敗
- 事前・設計段階での考慮による自己決定の補完

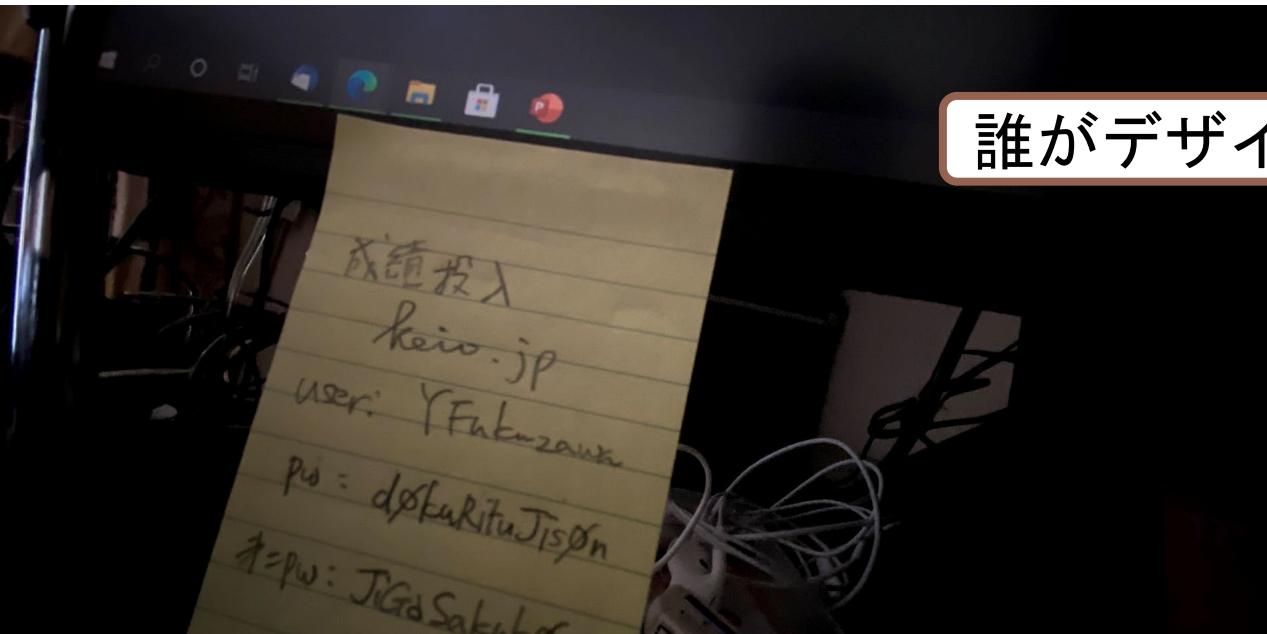


Photo: Takehiro OHYA



いらすとや (<https://www.irasutoya.com>)

# BigTech.....国際的な巨大IT企業

- 一定の信頼性
  - 顧客の満足を追求 (Win-Win)
- 本当に？.....利益相反の可能性と検証可能性
  - レコメンデーション.....個人のこれまでの選好を反映
  - 在庫量と無関係であることの証明？
- 顧客満足以外のつなぎ止め策.....ロックイン
  - ウェブメール・サービスの独自機能
  - サブスクリプションモデル

# 国家....独占的な公益的主体

- 民主的な正統性 (democratic legitimacy) が
  - ある国ではある／ない国にはない
- 離脱不能なサービス提供者.....唯一性・特権性
  - 利便性の基礎としての身分登録 → 情報の完全な結合
  - デジタル・レーニン主義(S. Heilmann)
- コンタクト・トレーシングとExposure Notification Framework
  - プラットフォーマーからの制約？
  - 無制限な国家主権行使を警戒？

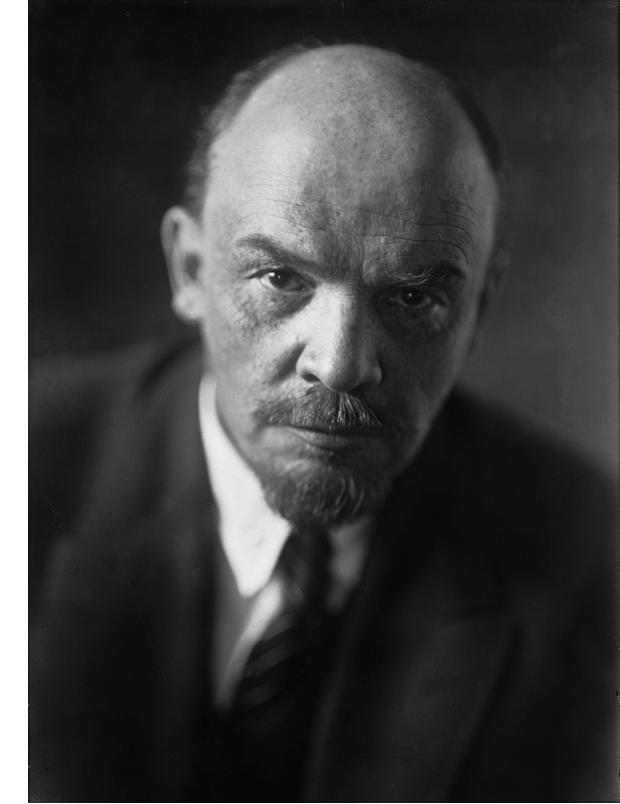


Photo: Pavel Semyonovich Zhukov (public domain)

# 個人....GDPR

- EU一般データ保護規則 (GDPR : 2018.5.25施行)
  - 個人データに対するデータ主体の権利を確立
  - 自己コントロール=意思に基づく自律
  - eg. データポータビリティ権 (20条)
    - 個人データを管理者から受け取る／取り戻す権利
    - 他の管理者への直接移行はoptional
    - 受け入れは義務ではない

実効性？



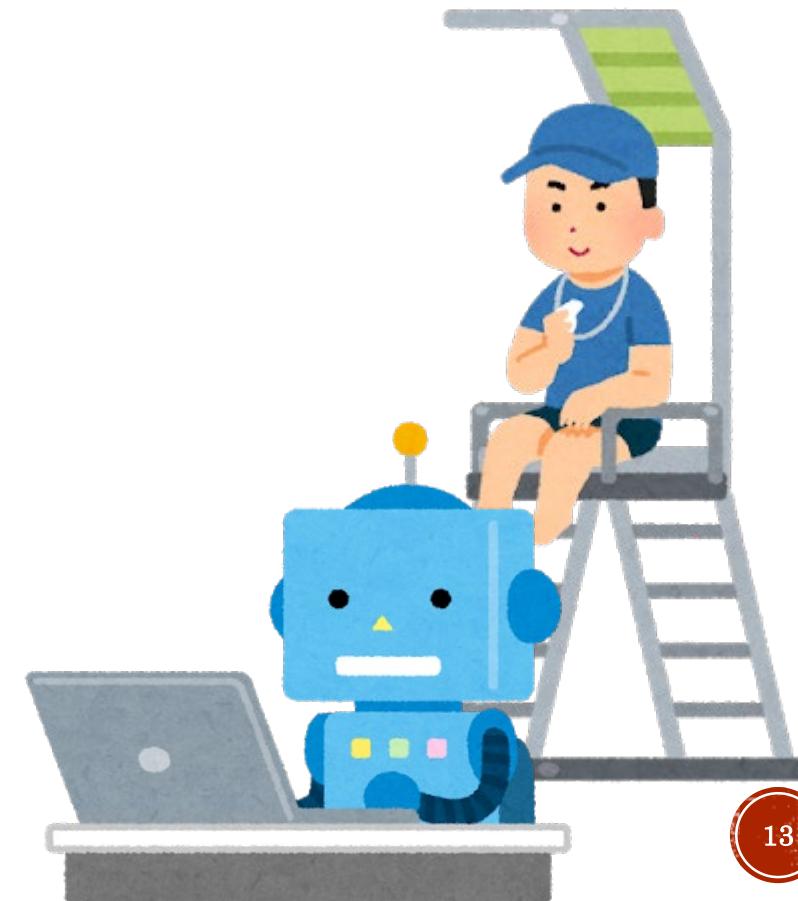
# Human-in-the-loop

- プロセスに対する人間の関与を保障
- 完全な自動化の否定

人間は信頼できるか？

中立性・不偏性の問題

作業量や情報保護の問題



# 三つのモデルの共通点

- 社会・制度の複雑化・高速化、情報量の増大
- 個人の相対的な無力化
  - ↓
- 対策としてのパターナリズム（本人利益のための介入）
  - 企業・国家による結論への誘導（自律の忘却）
  - 自律的選択への強制（適切性の忘却）

## 問題：

自由と幸福の両立は本当に不可能なのか？  
両立を阻害しているものは何か？

# 団体の再生

- 相対的に高い能力（専門性、判断能力）
- 相対的に高い資源保有状況（時間・労力）
- 裏付けるもの.....個々人の同意と協力
  - 信頼と資源提供
  - eg. 労働組合、消費者団体 etc.
- 団体は信頼に値するか？ → trustworthinessの基礎



# 消費者団体の社会的可能性

- 個人の判断力・注意力の外部化=代行
  - 独立性・透明性……信頼の源泉
    - 事例集積→システム解析、専門家の動員
    - 法制度検討への関与
- 事業者にとっての信頼性供給
  - 外部の第三者に監視されている、という信頼性
    - 根拠のない信頼／不信からの脱却
  - esp. 透明性に限界のある場合（アルゴリズム、学習モデルetc.）

# 今後への課題？

- 「消費者問題」の消失？
  - 大量生産された定型的商品の取引 → 均質な条件、均質な「消費者」
  - サービスの個別化（約款法理の終焉）……注目すべき「共通性」の探索
- 「消費者」の消失？
  - 二面市場とアテンション・エコノミー
    - ユーザーは第三者から財を引き出すための「商品」
  - 注目させられる個人……損失？救済の論理？司法手続？